

II 利用促進

2009年度及び2010年度の利用促進の状況と諸施策について報告する。

1. 加速器運転状況

2009年度の加速器運転時間を、図1と表1にまとめて示す。シャットダウン(2010年1月～3月)中は主に超伝導ウィグラーとBL07の設置が行われた。

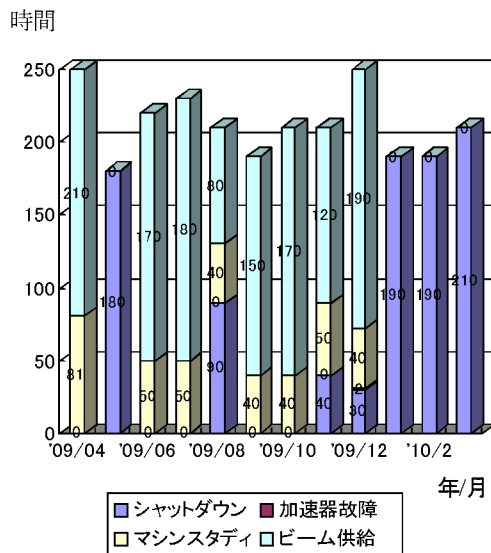


図1 加速器運転時間

表1 2009年度加速器運転状況

	時間数
シャットダウン	930
加速器故障	2
マシスタディ	391
ビーム供給	1270

次に、2010年度の加速器運転時間を、図2と表2にまとめて示す。

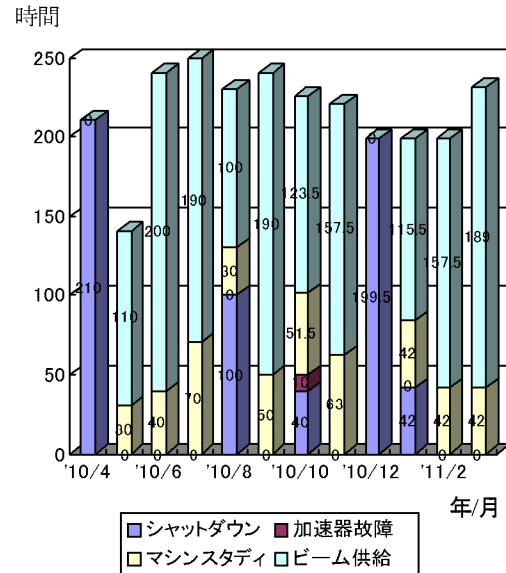


図2 2010年度加速器運転時間

表2 加速器運転状況

	時間数
シャットダウン	591.5
加速器故障	10
マシスタディ	460.5
ビーム供給	1533

2010年度では、超伝導ウィグラーの立上調整は順調に進み、マシスタディ、ビーム供給ともに時間数は2009年度よりも増加した。

2. ビームラインの状況

2009年度は主に4本の県有ビームライン(BL09A、BL11、BL12、BL15)で利用実験が行われた。また、BL10は立上調整が行われ、続いて、利用実験が開始された。

他機関ビームラインでは、佐賀大学ビームラインBL13とニコンビームラインBL18で利用実験が行われた。また、新たに九州大学ビームラインBL06

の立上調整が開始された。

2010 年度は 5 本の県有ビームライン(BL09A、BL10、BL11、BL12、BL15)の利用実験が行われた。また、新たに BL07 の立上調整が行われ、続いて利用実験が開始された。

他機関ビームラインでは、引き続き 3 本のビームラインで利用実験が行われた。

県有ビームラインの概要を表 3 に示す。

表 3 県有ビームラインの概要

名 称	エネルギー	実験手法
BL07 バイオイメージング	5～ 35 keV	(蛋白質 X 線回折) (イメージング) XAFS
BL09A 照射・結晶構造	白色	照射 トポグラフィ
BL10 ナノサイエンス	40～ 900 eV	光電子顕微鏡 角度分解光電子 分光
BL11 局所構造	2.1～ 23keV	XAFS 蛍光 X 線分析 小角散乱
BL12 表面界面	40～ 1500eV	光電子分光 軟 X 線 XAFS
BL15 物質科学	3.5～ 23keV	回折・散乱 XAFS イメージング

3. 利用状況

2009 年度は、県有ビームラインの産学官による外部利用の時間数は 2510 時間、利用件数は 130 件であった。表 4 に利用区分とその利用状況を示す。「一般利用」(利用情報秘匿可)の時間数が最も多かった。11 月から「長期利用」(文部科学省先端研究施設共用促進事業)を新たに始めたが 2009 年度は年度末にシャットダウンを実施したため時間数は 110 時間であった。図 3 に産学官の利用時間数の割合を示す。企業の利用が約半分を占め、経済状況が好転したことを窺わせる結果となった。

また、2010 年度の外部利用の時間数は 3179 時間、利用件数は 142 件であった。表 5 に利用区分と利用状況を示す。また図 4 に産学官の利用時間数の割合を示す。何れも 2009 年度と同様の傾向であった。

表 4 外部利用の状況 (2009 年度)

利用区分	利用件数	利用時間 (時間)
一般利用	61	970
公共等利用	4	50
ナノテク利用	39	760
長期利用	2	110
パイロットユース	2	80
地域戦略利用	21	520
共同研究	1	20
計	130	2,510

表 5 外部利用の状況 (2010 年度)

利用区分	利用件数	利用時間 (時間)
一般利用	55	1103.5
公共等利用	12	142.5
ナノテク利用	39	634.5
長期利用	7	618
パイロットユース	4	153.5
地域戦略利用	24	485
共同研究	1	42
計	142	3,179

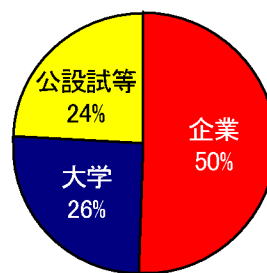


図 3 2009 年度産学官の利用割合

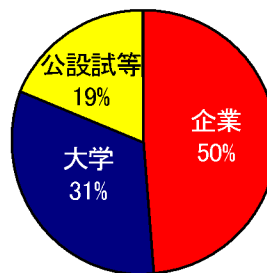


図 4 2010 年度産学官の利用割合

なお、利用区分の概要を表6に示す。

表6 利用区分の概要

利用区分	概要
一般利用	主に企業利用を想定（学官可）。 成果非公開。
公共等利用	大学、公設試等に限定。 成果公開。
ナノテク利用	産学官の利用可。 文部科学省委託事業。 成果公開。
長期利用	産学官の利用可。 文部科学省補助事業。 成果公開。
パイロット ユース	研究センターの要請で実施。 成果公開。
地域戦略利用	佐賀県試験研究機関の利用。 成果公開。
共同研究	機関間の契約に基づく研究。

4. 利用の促進について

4-1 利用推進協議会

利用推進協議会は、産学官が連携してセンターの利用を推進することを目的に2004年11月に発足した。2009年度及び2010年度は、主に協議会のネットワークを通じて、利用課題募集の情報、各種セミナー及び講習会の開催情報等をメールにより提供した。

2009年度末および2010年度末の会員数は、表7及び表8のとおりである。

表7 会員数（2009.3.31現在）

会員総数	380
うち 企業	114
大学関係	208
その他	58

表8 会員数（2010.3.31現在）

会員総数	393
うち 企業	119
大学関係	213
その他	61

4-2 利用相談及び利用後のアンケート収集

企業、大学、公設試験研究機関などからメール、電話、来所等により多くの利用相談が寄せられ、利用コーディネーター（研究技術担当副所長）を中心に随時相談に対応した。このうち、メールでの相談が最も多かった。

また、2009年10月から実験終了後に実験責任者からビームタイム利用記録兼アンケート用紙を収集した。そのアンケートの要望を基に利用の改善に努めた。

4-3 講習会、施設案内等

2009年度及び2010年度に利用促進のために実施した講習会、施設案内等の実績は表9及び表10のとおりである

表9 講習会等実績（2009年度）

	実施年月日	参加者
SAGA-LS サマースクール 2009	2009.8.26-28.	11名
応用物理学会九州支部 学術講演会広報ポスター 展示	2009.11.21	～200名
中性子/放射光産業応 用合同シンポジウム	2010.02.05.	60名
XAFS 講習会	2010.03.26	27名

表10 講習会等実績（2010年度）

	実施年月日	参加者
北九州産業学術推進 機構・九州シンクロト ロン光研究センター 合同シンポジウム	2010.7.20	83名
SAGA-LS サマースク ール 2010	2010.8.25-27	12名
応用物理学会秋季学 術講演会広報ポスター 展示	2010.09.14	～500名
文部科学省ナノテク ジャパン 2011 広報ポ スター展示	2011.02.08	～200名